イエローヘッド病

Yellow Head Disease;YHD

主にウシエビに発生するウイルス病

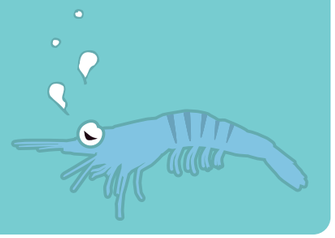
主にウシエビに発生するウイルスによる病気である。1990年にタイの養殖ウシエビに発生し、その後インドや台湾などでクルマエビ属のえびに発生している。

どんな病気?

1.稚エビもしくは養殖開始2ヶ月程度までの幼エビが感染しやすい。
2.突然数日間の異常な摂餌の増加がみられた後、食欲がなくなって死亡し始める。
3.ウシエビでは死亡率が100%近くに達する。
4.外観症状としては、頭胸部が黄色味を帯びてみえる。
5.解剖すると、鰓の色が淡黄色から褐色にみえる。肝膵臓の薄黄色化もみられる。

病気が発生したくるまえび属のえび類

ウシエビ（商品名：ブラックタイガー）など



発生のあった国・地域

タイ、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン
中国、台湾

鰓の黄変がみられる（ウシエビ）。
【D.V.Lightner博士提供 1996】

頭胸部が黄色味を帯びてみえる（ウシエビ）。右は健常なウシエビ
【D.V.Lightner博士提供 1996】